

# コロナ禍に「希望の光」



「命」の文字のキャンドルに火をともし「きび庭瀬」の職員ら＝24日、岡山市北区庭瀬

新型コロナウイルス収束を願い、リレー形式でろうそくの火をともし「キャンドルナイトリレー」が、県内の高齢者福祉施設に広がっている。倉敷市の特別養護老人ホーム（特養）を皮切りに、岡山、津山市、勝央町など7市町の11施設が昨夏からつないでおり、利用者らがコロナ禍で不安な日々を送る中、ひとときの癒やしとなっている。（大橋洋平）

## 県内11高齢者施設 キャンドルリレー

集団感染リスクが高い施設では、利用者が面会や外出の制限を余儀なくされ、職員も遠出禁止など私生活でも制約を受ける。キャンドルナイトは昨年8月、以前の生活をとり戻せるようお願いを込めて特養の「ますみ荘」（倉敷市中島）が企画。

着目した県老人福祉施設協議会（岡山市）がリレーでつなごうと他施設にも呼び掛けた。

特養「きび庭瀬」（岡山市北区庭瀬）では24日午後7時ごろ、職員が駐車場に配置した約800個のろうそくに点火。「命」の文字が浮かび上がり、周囲を幻想的に照らした。容器には「コロナ退散」

## 利用者らの心癒やす 願い開始 昨夏

「家族に会いたい」など利用者や職員らの思いもしたためられ、入所者の中條範子さん（68）は「コロナで寂しい思いもしたが、とてもきれいな明かりに元気をもらえました」と笑顔だった。

同協議会によると、これまで参加した施設関係者からも「心が洗われて涙が出た」「希望の光のように感じた」といった声が寄せられているという。同協議会は新年度以降もリレーを継続する方針で、担当する21世紀委員会の小森弥彦副委員長（ますみ荘施設長）は「利用者や介護従事者らが少しでも明るくなるようキャンドルの輪を広げていきたい」と話している。